


	第 7 号	発行：鳥取西高等学校近畿同窓会
	2015年3月1日発行	発行責任者：米澤道隆（西高昭39年）
		編集責任者：山内紀嗣（西高昭43年）

第五十一回総会

賑やかに開催

一昨年は五〇周年となる歴史的節目を終え、昨年は新たなスタートとなった第五十一回近畿同窓会を、遠路母校より河田透校長（西高五〇年）、蔵多総務部長（同五一年）、同窓会より西尾公孝副会長（同三七年）、そして県の関係機関から米田裕子鳥取県関西本部長をお迎えし、平成二六年六月二九（日）大阪キャッスルホテルにて総勢七五名参加のもと賑やかに開催しました。

まず総会の部では、米澤道隆会長（西高三九年）から、「今年近畿同窓会の新たなスタートとなった年でもあり、今後さらなる発展のため会員の皆様のご協力をいただき活気ある同窓会にしていきたい」との挨拶がありました。議事では、事務局より平成二五年度決算報告と安宅監査（西高四三年）から会計監査報告を、続いて平成二六年度予算案と役員改選についての提案を行い、満場一致で承認されました。

新役員については、岩永建夫幹事（西高四二年）が副会長に昇任、新たに庄田英一さん（西高四四年）が幹事として就任し紹介されました。また各ご来賓の皆様からお祝いの言葉をいただきましたが、中でも河田校長から西高教育の現状と各クラブの活動状況の報告などがありました。

総会後の特別プログラムでは、昨年の母校創立百四〇周年を記念して制作されたDVDが上映され、懐かしいシーンの数々に出席者の皆さんは画面を食い入るようになり、歴史の重みを感じておられました。懇親会を大いに盛り上げたのは西高四三年卒を中心とした七名の有志の皆さんによる「にわかバンド」のアトラクション。総会直前に結成されたとは思えぬ見事な演奏で会場を大いに沸かせました。

カラオケや詩吟も飛び出し、名残が尽きない中、フィナーレでは例年の如く一中、高女、西高の校歌を初めてとなるピアノの生伴奏により高らかに歌い、岩永新副会長の一本締めで無事閉会となりました。

（近畿同窓会事務局 村江信幸（西高四三年））

第52回鳥取西高近畿同窓会のお知らせ

期 日： 平成27年6月21日（日） 11:00～15:30
 受付は 10:30 より
 会 場： 大阪キャッスルホテル6階
 大阪市中央区天満橋 1-1 Tel 06-6942-2401
 ①総会：11:00 ②懇親会：12:00～15:30
 会 費： ￥7,000 〈会場にご持参下さい〉
 （29歳以下の会員は 5,000円）
 恒例の長寿（満80歳）のお祝いをします



鳥取西高 近畿同窓会役員

名誉会長：高野泰明（西高29年）
 会 長：米澤道隆（西高39年）
 副会長：田中勲（一中56回）、植村京子（西高34年）、高野彰允（西高36年）、岩永建夫（西高42年）
 幹事長：山内紀嗣（西高43年）
 幹 事：中嶋輝夫（西高26年）、太田匡四郎（西高26年）、本家公一（西高43年）、水谷陽子（西高43年）、庄田英一（西高44年）、山田陽子（西高45年）、村上悦洋（西高48年）、川上浩一（西高50年）
 監 査：斎藤哲也（西高年28）、安宅寿昭（西高43年）
 事務局長：村江信幸（西高43年）（下線部は新任、ゴシックは昇任）

石鎚山を楽しむ

土岐久美子(西高四三年)

山を歩くようになって二十数年。私の住む愛媛県今治市の南、約40kmに位置する西日本最高峰の石鎚山(一九八二m)は、何度通っても、季節を問わず楽しめる山です。

山頂からの展望は、天候に恵まれれば、北は大山、東は剣山、南方は太平洋沿岸の果てに室戸岬、西方は佐田岬の彼方に九州の山並みを望むことができます。神社のある弥仙から霧に隠れている天狗が見えるのを待つのもまた好しとするものです。

北側の西条市、ロープウェイを利用して一息に1400mまで登り成就社を参拝するルートがありますが、南側の土小屋からの登山道沿いには高山植物が豊富です。国道一九四号線寒風山トンネルを



抜けて山の道に向かうと高知県境沿いの瓶ヶ森林道(最近UFOラインの呼び名を得る)からの眺めも素晴らしいものです。「ガスで真っ白な二八kmを走り抜けたこともありますが」。

石鎚山登山道は参道です。七月一日の小山開きから十日間は信者の人たちがぎわいます(二日は女人禁制)。また、近年は愛媛大学山岳部OBを中心に避難小屋やパイオトイレの設置そのほかの登山道、縦走路が整備され続けています。

さあ！七月も間近です。絶滅危惧種のイシズチイチゲやキレンゲシヨウをもとめてお花畑に舞う蝶などに励まされながら緑豊かな道を歩きましょうか。

(愛媛県今治市在住、毎年近畿同窓会参加)



私と音楽

村江信幸(西高四三年)

私が「音楽」というものに最初に出会ったのは幼児期のころだったと思います。両親がキリスト教信者だったことから自宅で日曜学校があり、父がオルガンを弾き、皆で一緒に賛美歌を歌ったのが始まりだったと思います。

小学校、中学校でも教会で賛美歌、聖歌を歌いました。徐々に音楽に馴染んで遊び心でオルガンの鍵盤を弾いていました。おかげで楽譜も読めるようになり、中学校に入学した際には迷わずブラズバンド部に入りました。ブラズバンドといっても六々七人しかいない、ただ楽器を吹くだけの集まりで私はトランペットを吹くことになりました。しかしまともに吹き方を教えてもらったわけでもなく、ただ吹いて音をだすのに一生懸命の三年間だったように思います。

西高に入学した際もブラズバンド部に入りましたが、岩美中学から入ってきた同じ一年生のレベルの高さにびっくりしました。楽器も希望のトランペットではなく体が大きいからという理由だけで大バスになり、益々落ち込んだ時期でもありました。二年生になってトランペットが手薄になったと



いう事情もあり、経験があったということとトランペットを吹くことになりました。三年生まで音楽を楽しみ、県大会の吹奏楽コンクールでは三年間連続して優勝することもできました。

卒業してからも約三年間トランペットを吹く機会がありました。その中で青山和子さん、花村菊江さんというプロ歌手の地方巡業に帯同してバックで演奏をしました。芸能界の華やかな一面とは逆に醜い面も多く、この経験がある種のトラウマとなり、以降、約四〇有余年もの長い間、トランペットから遠ざかってしまふことになりました。その間、いろいろな音楽にも出会うことがありましたが、やはりトランペットへの気持ちは心の中に残ったままでした。

一昨年の近畿同窓会が五〇回という節目を迎えた際に昔の仲間たちに声をかけて図々しくもアトラクションで演奏することにになりました。気持ちが高ぶったことは申すまでもありません。同窓会以降皆と集まって練習したり、同窓会で演奏したりと、また新しい「音楽」に出会えたことで充実した気持ちでいる毎日です。

学年同窓会の情報



最近、近畿ブロックでも各学年の同窓会が活発に行われています。そのうち、昭和三四年と四〇年、五〇年の同窓会を紹介します。

三四年の同窓会は会の名称を「三思会」とし、年四回ほど、一〇名程の方々が集まり、なごやかに催されています。



昨年春は京都に集合し、京の満開の桜を堪能し、秋にも集まりました。さらに昨冬には丹後へ繰り出し、松葉ガニを堪能したとのこと。写真は春のものです。

四〇年の同窓会は阪神大震災の翌年から、毎年二五人程度が集まり開催しているとのこと。平成二六年は梅田のグランド白楽天という中華料理店で行なったそうです。毎年五月第三土曜日と決めてお



り、昨年は一七日でした。今回も遠く関東や地元鳥取からも参加者があり、盛大に開かれました。来年は卒業五〇年でもあり、鳥取で開かれる予定です。

五〇年の同窓会はこれまで3回開いており、この写真は一昨年のものです。

大阪のリーガロイヤルホテルが会場で、十数名集まるとのこと。今年には還暦記念で神戸に集まり開催の予定だそうです。



西高二ユース

西高校舎は建替えではなく、耐震補強の工事をする事になりましたが、その西側には二の丸や大手登城路という城に入るメインの通路がありました。

現在は鳥取城の整備にかかる工事が行われており、これまで車で入ることのできた大手登城路からは出入りできません。濠を渡った所は元は中ノ御門があった位置であり、左の写真のように、門の建物も復元されることになっています。また、グラウンドも西側がやや狭くなります。工事は平成三十年頃に完成予定だそうです。



擬宝珠橋と中ノ御門の復元図



卒業生の活躍

野球部OBの

小畑彰宏さん



皆様は覚えておられると思います。平成二一年卒業の小畑彰宏さんは西高三年生の夏に甲子園に出場しました。その後、青山学院大学野球部を経て、現在大阪ガス硬式野球部で活躍されています。

昨年は都市対抗野球大会に出場し、準々決勝で敗退するも、好救援で信頼を得、優秀選手になりました。また、社会人野球日本選手権大会では2回戦のJ.R北海道戦で3安打完封。準々決勝の対セガサミー戦で好投しましたが、惜しくも敗戦となりました。しかし、この大会でも優秀選手に選ばれました。

今年も両大会で優勝をねらうとともに、「橋戸賞」を目指しています。

秋にはプロ野球のドラフトにかかる可能性があり、将来の活躍が楽しみな選手です。期待して下さい。

(事務局報告)

近況の近況



(昨年の返信葉書通信欄より)

大兼利夫(一中五四回) 元気に働いています。

山中 孔(一中五四回) 日本の住まいはレベルはまだまだと認識しており、有志とその向上のため、研修中です。

村江況愛(一中五五回) 八九歳を迎える年となりました。元気で毎日旧友に手紙を書いて、返事が返ってくる嬉しくなり、会いたくなる。一方、返事がないと元気ではないのかと寂しくなる。そんな毎日です。

田中 勲(一中五六回) 寒さを乗り越えてやとと春。桜を見ることができました。満八九歳、来年は数え年九〇歳になります。なすべきことが残っています。極楽地獄は暫く待つてください。頑張ります。

福富照代(高女一五年) 満九〇歳となります。足腰丈夫で何不自由なく生活はできますので喜んでいきます。若い時同窓会に出席していたらと残念です。

吉村芳野(高女二四年) 健康に気をつけながら毎日を過ごしています。

西原章忠(西高二五年) 健康に気をつけてできるだけ自然に生活してゆきたいと思っています。

米田登美子(西高二六年) お陰様で元気に毎日過ごしております。

井上好恵(西高二八年) 京都に嫁いで五六年も経ちました。平安神宮婦人会、京都府防衛協会女性部など忙しく、毎日

マイカーで都大路を走っています。
赤松小乃江(西高三一年) 元気に過ごしています。

草野紫子(西高三三年) 鳥取ジュニアR G(新体操教室)演技発表会(H26・3・8 県民体育館)を観て幸せ感に浸り、音体部員だった青春の夢をみしました。

寺中 緑(西高三三年) 発病以来、五年目の戦いでリハビリ三昧です。

有松敏樹(西高三四年) 新しい仕事にチャレンジしてみたいと考えて、ドイツのパッケージ展に行きます。

植村京子(西高三四年) 「日々、バタバタ急ぎ事と大切な事は忙しい人に頼め」とはナポレオンの言葉。何だか頼み事は断れません。

尾崎宗昌(西高三四年) ヤマハ東京外部チューナー、健康管理士、沢井箏曲院教授。

中原悠司(西高三四年) NPO法人「大阪高齢者大学」にてボランティアでクラス担任をしています。

中村俊弘(西高三五年) 変わりなく元気に過ごしております。

市川渥史(西高三七年) 橋本市内退職教員の会の事務局を持っていて、猛烈な忙しさの中での日々を過ごしています。

岩崎雅子(西高三七年) この頃、ゆつくりと人生を楽しんでいます。

谷口節子(西高三七年) 母(九四歳)の介護をしております。
近藤紀子(西高三八年) 七〇歳を前に

身体をいたわりながら、またカツを入れながら頑張っております。ダイビングを趣味として楽しんでいきます。

石田正純(西高四一年) 近年、筋力低下で体力UPをめざし、筋力トレーニングを夫婦で頑張っております。

川上正人(西高四一年) マンションの共用部リニューアルの業務を建築設計事務所で行っております。

宇都宮紫子(西高四一年) 介護の現場はスタンプ不足で悲鳴をあげています。私も高齢者(笑)ですが、二カ所かけもちでデイサービスの看護をしています。

塩田久江(西高四二年) 脊柱管狭窄症になり、毎日、足のリハビリと戦っています。

綾木秀人(西高四三年) 行政書士の傍ら社会福祉法人に非常勤で行っています。

伊良子序(西高四三年) 近著『小津安二郎への旅』(河出書房新社)、『昭和巨人伝』(洋泉社)を書きました。

酒澤一嘉(西高四五年) 定年退職してパートで働いています。

松尾三紀子(西高四五年) 公立中学校の放課後補習授業の手伝いをしています。こちらも若返り、勉強にもなります。

坂岡隆司(西高四七年) 本を出版しました。エッセイ集です。『一粒のたねから』(いのちのことば社)です。一読下さい。

由谷ひろみ(西高五〇年) ママさんコーラス等のピアノ伴奏で音楽にふれる毎日を送っております。



お悔やみ

前副会長の谷 紀昭さん(西高三〇年)は平成二六年十月二十一日、病氣療養中のところ、ご逝去されました。享年八〇歳でした。永らく当会のためにご尽力されました。慎んでご冥福をお祈り致します。

近況をお知らせ下さい

皆様の近況や学年同窓会の様子、西高や鳥取にまつわる情報など何でも結構です。

連絡先 〒632-0803

奈良市山陵町236-1

サンプラザ2-208

村江信幸 宛

携帯番号 090-3465-7203

平成25年度西高近畿同窓会 会計報告 (平成25年1月1日~12月31日) (単位:円)

収入の項	金額	支出の項	金額
前年度繰越	1,122,547	通信・交通費	111,135
年会費収入	243,680	印刷費	129,679
總會費収入	537,000	總會費	542,370
雑収入	227	事務局費	102,641
		雑費	4,579
		次年度繰越	1,013,050
合計	1,903,454	合計	1,903,454